



横山英幸市長就任あいさつ

このたび、大阪市長に就任させていただき、市民の皆さんから寄せられた期待に応えられるよう、全力で取り組んでまいります。

大阪市では、様々な改革に取り組み、そこから生まれた財源を活用して施策の充実に取り組んできた結果、まちの成長を実感できる状況となっています。

今後一層、子育て・教育や保健医療・福祉などの市民サービスの拡充を図り、誰もが健康で豊かな都市生活を送れる、住みたいまちを築いていきたいと考えています。

また、大阪・関西万博を成功させ、大阪の経済やまちが発展する取り組みを大阪府とともにさらに進め、日本の成長をけん引する副首都・大阪の実現をめざします。



皆さんの暮らしを守り、その充実を図るとともに、大阪のさらなる成長に向け、市政運営に邁進してまいりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

5月12日は民生委員・児童委員の日 ～支えあう 住みよい社会 地域から～ 「あなたの身近な相談相手」 北区に166人

民生委員・児童委員、主任児童委員は、皆さんが住み慣れた地域で安全に安心して生活が送れるよう、それぞれの担当地域でさまざまな活動を続けています。

北区には16の地区民生委員児童委員協議会があり、民生委員・児童委員133人、主任児童委員33人の合計166人(令和5年5月1日現在)が関係機関と連携し、地域の身近な相談相手・支援者として活動しています。

Q. どんな相談にのってもらえますか?

A. 「福祉に関すること」「子育てに関すること」「生活・健康に関すること」などお悩みやご近所で気になることがございましたら、お気軽にご相談ください。

令和4年12月に3年に1度の一斉改選が行われ、北区では新任委員26名を迎え、新たなスタートを切りました。

※お住まいの地域の民生委員・児童委員については、下記までお問合せください

問 北区民生委員児童委員協議会事務局
(北区役所福祉課内・3階30番窓口)

☎ 06-6313-9931 ☎ 06-6313-9905

全国民生委員児童委員連合会ホームページ▶



Q. 相談内容は秘密にしてもらえますか?

A. 法律で守秘義務が定められ、個別の相談など、活動を通じて知り得た個人の秘密は守られます。

北区民生委員児童委員協議会新役員
(左から)寺井宏次副会長、辻博志会長、
晴地(あぜち)康博副会長



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

私たちのSDGs⑯

地球規模の環境問題や社会課題の解決も、まずは一人ひとりの小さな実践の積み重ねから。毎月、区内の様々な活動をお伝えします。

まぜこぜ大阪

「誰もが生きやすい社会」 楽しく体験するイベント

国連が定めた世界自閉症啓発デー(4月2日)の時期に茶屋町エリアで開催されるイベントです。参加のルールは、シンボルカラーの青いものを身につけることだけ。実行委員の藤田秋香さんは「楽しみながら、誰もが当たり前で生きられる『まぜこぜ社会』を体験できます」と話します。

障がい者の就労支援や、子どもの人権を守る活動に取り組む藤田さんと、飲食業界の障がい者支援を橋渡しするNPO法人essence副理事長の守部吾妻さんが、周囲の人に呼びかけて実行委員会を結成、2016年にスタートしました。東京でタレントの東ちづるさんが立ち上げた団体「Get in Touch」が、世界自閉症啓発デーを機に「誰も排除されない『まぜこぜ社会』へ」と、アートや演劇などを通じて発信する活動に刺激を受けました。

今年は4月2日のタグポート大正(大正区)でのイベントに続き、5月14日に茶屋町一帯で展開します。美味しいものが集まるマルシェ、音楽やダンスのライブ、地図を片手に茶屋町一帯を歩き、啓発ポスターの写真を撮る「茶屋町ロケイング」など多彩な内容。遊びと、自閉スペクトラム症(自閉症)、ダウン症、若年性認知症、子どもの人権などの啓発活動が「まぜこぜ」の一日です。「福祉の世界と縁遠い人も気軽にのぞいてほしい」と藤田さん。「スタッフは様々な障がいのある人も、障がいのない人もまぜこぜ。一緒に働く姿は『まぜこぜ社会』の豊かさを感じさせてくれます」



みんなが青を身に着けて歩いた
2022年の「まぜこぜウォーク」

まぜこぜ大阪2023

☎ 5/14(日) 11:00~17:00

場 ちゃやまちプラザ

(茶屋町17-1 毎日放送本社1階)
梅田東コミュニティ会館(茶屋町2-9)

☎ mazekozeosaka@gmail.com

【目標】 16 平和と公正を すべての人に

平和でみんなが参加でき、地域・国・世界のどのレベルにおいても、すべての人が平等に扱われ、必要な説明がなされる制度をつくる

《SDGsチャレンジ》

自閉スペクトラム症について知ろう

実行委員の
藤田秋香さん



日本にアルゼンチンタンゴの 奥深さを伝えたい



エルネスト・スーテルさん(左)とパオラ・クリンガーさん(右)

ユネスコの無形文化遺産に登録されているアルゼンチンの伝統舞踊・タンゴのプロダンサーです。西天満のタンゴバー「カフェティン・デ・ブエノスアイレス」を拠点に活動しています。

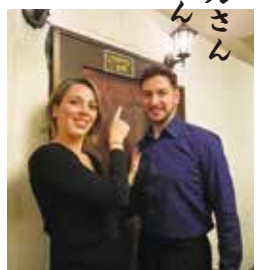
ブエノスアイレスで2人が出会ったのは高校生のとき。それから20年以上、ペアで踊っています。2002年からプロとして活動、アルゼンチンやヨーロッパの多くの都市でワークショップやショー、デモンストレーションを行ってきました。初来日は12年前。2019年から北区に住んでいます。

大阪で暮らし始めたきっかけは、2人の間に赤ちゃんができたこと。ワークショップで大阪を訪れた際のアットホームでフレンドリーな印象が忘れられず、ここなら落ち着いて子育てと仕事が続けられると思ったそうです。「大阪の人はみんな優しい。近くの公園に息子のマティを連れて行くと、皆さんが集まってきて遊んでくれます」。大阪人の気質はラテン系なので違和感がないそうです。

「相手を信頼し尊重する」「自分の足で立つ」など生きる上でも大切なことを教えてくれるタンゴを、「人生そのもの」と言い、その奥深さと魅力を一人でも多くに体験してもらいたいと願っているお2人です。

愛好家がタンゴを踊って楽しむ「カフェティン・デ・ブエノスアイレス」では、2人のレッスンも受けられます。今年アルゼンチンと日本の外交関係樹立125周年。タンゴを通して、アルゼンチンの文化に触れてみませんか?

カフェティン・デ・ブエノスアイレス
西天満4-12-22 第3青山ビル地下1階



ブエノスアイレスっ子の2人に
会いに来てね!

北区の魅力は? みんながとても優しい街

夢・キタ・ひと

⑬

タンゴプロダンサー・
エルネスト・スーテルさん
パオラ・クリンガーさん



ホームページ▶